

## 巻 頭 言

名古屋柳城短期大学

学長 長 縄 年 延

名古屋柳城短期大学は、1898年（明治31年）カナダ聖公会の宣教師マーガレット・ヤング先生が、名古屋市東区白壁の地に保姆養成所を創設されたのが始まりです。そして2018年はちょうど創立120周年の記念の年です。

この120周年を記念して、今新しいキャンパス整備の工事が行われています。第1期工事では、校門右に新しくカフェ棟が作られ、1階が念願の学生食堂、2階が図書館の一部ラーニングコモンズ、屋上はテラスとなり2018年3月に完成します。

2018年4月から第2期工事が始まりますが、1号館と2号館の間に新しく5階建ての新3号館が建設されエレベーターが設置されます。2階には今より余裕のあるロッカールーム、3階に新しい栄養実習室、4階に50人の2教室、5階には新しくピアノ室を9室増設し今の1号館と結んでピアノ教室を充実します。1号館と2号館が1階～3階の廊下でつながり、大学のキャンパス全体が一体となり講義と講義の間の動線がよくなります。2019年には、1号館B棟の耐震工事、学習支援センターの設置や事務室の整備、中庭の整備などを行い2019年度中に完成します。

学生のみなさんから直接要望を聞いたり学生満足度調査を何度も実施し、学生目線に立った計画が出来上がり、ようやく新しい歴史を開く名古屋柳城短期大学のキャンパスが実現します。

名古屋柳城短期大学は、1953年柳城女子短期大学として開学、その後保育課の定員が40名から100名へ、そして150名から200名に増員となりました。学科卒業生の数は2017年3月で7961、それまでの保姆養成所などの卒業生334名を加えると8294名になります。

4年制大学の学位に相当する学位を取得し幼稚園教諭一種免許の取得ができる保育専攻科は、1997年に設置され今年で21年目となりますが、114名が修了しました。また1年で介護福祉士の資格がとれる介護福祉専攻科は1998年に設置され今年で20年目になりますが、これまでに349名が修了しました。創立以来のすべての修了生、卒業生の数を合計

しますと 8758 名となります。

「保育の柳城」といわれ保育や福祉の分野で地域社会に貢献してきた柳城学院の役割は、まことに大きいものがあります。幼稚園や保育園、福祉施設から毎年学生数の 5 倍を超える求人があり、名古屋柳城短期大学の卒業生は就職率 100%を維持しています。そして付属幼稚園を卒園した子どもたちも多くの数にのぼり、120 年の歴史を刻む柳城学院のすそ野の広さを感じさせられます。

しかしながら今日本は深刻な少子高齢化社会の時代を迎えています。少子化のスピードが加速し、この 30 年で出生数は半減し日本は 2005 年を境にして人口減少の時代に入りました。18 歳人口は、1966 年には 249 万人でしたが、1992 年には 205 万人、2017 年には 120 万人と半減以下に大きく減少しました。「2018 年問題」と言われているように、2018 年から 2024 年にかけて 18 歳人口は毎年 2 万人ずつ減少していきます。そして 2032 年には初めて 100 万人を割って 98 万人になると予測されています。

日本の短期大学の入学者数は 1993 年には 25 万人でしたが、2017 年は 6 万人と大きく減少しました。この 20 年間に廃止になった短期大学は 280 校、新たに 4 年制大学に移行したり、既存の 4 年制大学の一部になった短期大学は 204 校に上ります。この中で特に保育系大学への志願者の減少が目立ちます。東京の有名短期大学である立教女学院短期大学は 2018 年度から、青山学院女子短期大学は 2019 年度から募集停止を発表しました。

名古屋柳城短期大学は 2014 年度までは、ほぼ定員割れもなく順調に入学者を確保してきましたが、2015 年度は保育科 200 名定員のところ入学者 150 名と 50 名の定員割れとなりました。2016 年度は保育科入学者 211 名と回復しましたが、2017 年には 176 名と再び定員割れとなりました。

少子化の時代にあって名古屋柳城短期大学はどう生き残ったらいいのか、附属幼稚園を含め柳城学院全体が今新たなビジョンが求められています。

名古屋柳城短期大学はこれまで多くの幼稚園、保育園、福祉施設にすぐれた人材を送り、地域社会に大きな貢献をしてきました。保育者不足の時代にあって、名古屋柳城短期大学の社会的使命はますます大きく重くなっています。これまでの量的な拡大の時代は去り、より質の高い優れた保育者の育成が求められています。

120 周年という記念の年にあたり、もう一度初心に帰り「愛をもってたがいに伝えなさい」という建学の精神に立って新たな展望を切り開きたいと思います。